

知って備える 防災メモ

第82回



暴風雪の脅威

北海道においては、発達した低気圧が北海道付近を通過するときや西高東低の冬の気圧配置により、季節風が強まったときなどに暴風雪や大雪が発生します。

雪には慣れていないはずの道内でも、毎年のように各地で暴風雪による被害が発生しており、油断は禁物です。

気象情報はこまめに確認

気象庁が発表する『暴風雪警報』は、暴風だけではなく、暴風により雪が舞い、視界がさげられることにより重大な災害が発生するおそれがある場合についても警戒を呼びかけるものです。

地域によって発表される基準は異なり、登別市においては、平均風速が陸上で18m/sを超え、雪により視界が不良となった場合に発表されます。警報発表中は、天気がよく見えても突如として荒天となり、数メートル先が見えなくなったり、強風でまっすぐ歩くことが困難になったりすることなどがありません。不要不急の外出は控えてください。

なお、FF式暖房機を使用している場合は、給排気口が吹きだまりなどによってふさがれ、最悪の場合、一酸化中毒を引き起こすこともあるため、注意が必要です。

外出中に暴風雪に遭遇したら

徒歩の場合は、方向感覚がなくなってしまうたり、看板や屋根などが飛んできたりするおそれがあるため、速やかに安全な屋内に避難し、天候の回復を待ちましょう。

運転中の場合は、そのまま運転を続けることは大変危険です。ハザードランプを点灯させながら、安全な場所に停車し、無理をせず状況に応じて、避難しましょう。

車で救助を待つ場合は、低温温症に注意しながら、基本的にはエンジンを停止させてください。暖をとるため、やむを得ずエンジンをかけるときには、排気管の周りをこまめに除雪することが重要です。

問い合わせ

総務グループ (☎01130)

人が輝き まちがとぎめく

仲間たち

Group

登別ハーモニカ愛好会

登別ハーモニカ愛好会は、平成7年に現・登別市ときめき大学の活動の一環として発足したサークルです。

現在のメンバーは60代から90代までの14人。月2回、水曜日の10時から12時まで老人福祉センターを会場にハーモニカの音色を響かせています。

「ハーモニカで童謡や民謡、歌謡曲などを練習しながら、楽しむことを第一にしています。演奏が呼吸器機能の訓練にもなると、健康づくりにもなるんですよ」と笑顔で教えてくれたのは、会長で、唯一の男性メンバーの石神吉四郎さん。

毎年、老人福祉センターで活動しているサークルの発表会に



ハーモニカ特有の音色を一緒に楽しみませんか

ハーモニカは、演奏の手軽さやなつかしさ、あたたかさが魅力という副会長の佐藤淑子さんは、「自分のペースで練習しながら、郷愁を誘う音色を楽しんでいます。多くの仲間と一緒に演奏することで、楽しさも倍増します」と教えてくれました。

子どもの頃に少しだけハーモニカにふれていただけという会員が多く、初心者の方も大歓迎という同会。仲間づくりの場にもなっている同会に興味のある方は、佐藤さん (☎011606) まで。



▲一列にならんで、ハーモニカを練習する会員